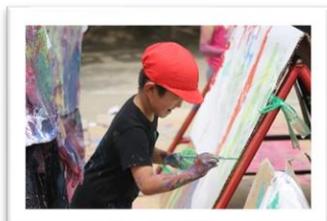


●6月のひとコマ

【塗たくり遊び】



肌で感じるモノとの出会い

6月は「いつも通り」の園生活を少しずつ取り戻していくような1か月となりました。6月上旬には園庭一面に段ボールを敷いて、汚れを気にせずに絵の具と親しみ、絵の具で楽しむ「塗たくり遊び」を行いました(2~5歳児)。絵の具に触れる・見ることが初めてという新入園児も多くいたのではないかと思います。園生活は家庭とはまた違ったたくさんのモノやこと(出来事)・人との出会いにあふれていて、1つ1つにたくさんの驚きや戸惑い、喜びを見せてくれるのです。

当園に定期的に来られ描画・造形活動のための研修・助言を頂いている岡山大学の橋功先生の言葉をお借りすると、【新しいモノやこと(出来事)との出会いひとつひとつに、子どもたちは「Who are you?」と問いかけ、見て、触れて、確かめながら世界を獲得】していきます。思い返してみると、はじめは手に絵の具がつかないようにと筆やローラーを使って遊び始めた塗たくり遊びでしたが、終盤になると誰から指示されたわけでもないのに自分の足や指、腕に絵の具を塗りつけることに没頭する子を多く目にしました。自分の肌で触れる中で、その感触や性質、混色の面白さをまさに肌で感じ、確かめることができたのでしょう。

認知心理学者である佐伯胖氏は『子どもを「人間としてみる」ということ』の著書内で次のように述べています。

たとえば、ハサミでもです。ただ、押していれば切れるっていうんじゃなくて、道具さんが語ってくれているわけですね。そこを聞き取るように道具と対話するかどうか。たとえば、セロハンテープをカットするテープカッターを例にあげましょう。子どもはふつう、「テープを切り離したい」という自分の目的から、テープを引っ張れば切れると思っちゃってるわけ。だから、引っ張って、引っ張ってちっとも切れない。そうすると、そのうちに、どんどん延びてきて、もうぐちゃぐちゃになっちゃう。そうじゃなくて、「テープさんどうなりたいの?」と丁寧に聞いてみる。カッターさんとどう出会うのか。テープさんと対話し、カッターさんとの出会いがうまくできるように、丁寧に、よくよく、よくみて、あー、こういうふうに分れるものなのかーということをしっかりみる。それはテープさんとのね、二人称的対話なんです。私はこう切ってもらいたい」とテープさんが言っているわけですね。それを、よく、「テープさん、なに言ってんの。あ、そー、そうそう、わかった、わかった」というふうになんか道具と対話するかどうかの問題なんです。(一部省略)

春、出会いの時期。さまざまな人・モノ・出来事との出会いが子どもたちの中のさまざまな対話を引き出し、それらを自身の成長に繋げてほしいと願っています。